

## 「外国人生徒への対応に関するアンケート」の回答内容

- ・ 調査の目的：外国人生徒を受け入れている学校の対応状況や、学習環境向上のために学校現場が必要と感じていることを明らかにし、今後の学習環境整備や、学校、教育委員会、NPO等の連携の具体化に役立てることを目的とする
- ・ 調査対象 平成25年7月に外国籍生徒が在籍していた公立中学校 132校
- ・ 回答件数 114校
- ・ 調査時期 平成25年10月～11月

### 1. 貴校の外国とつながる生徒（日本国籍だが親が外国籍の場合を含む）の受け入れ体制について

・ 日本語や教科を指導するために、在籍学級から取り出して指導する国際教室等がある	19
・ 校外から学習支援員が訪問し取り出し授業をしている	15
・ 生徒の母国語が話せる通訳を配置している	3
・ 地域の学習支援ボランティアに取り出し授業などで協力を得ている	4
・ そのほか	多数

※ 国際教室はないが、必要に応じて取り出して指導している（5）

### 2. 日本語に課題のある外国人生徒のための教員の加配についてお答え下さい。

- ・ 平成25年度、教員の加配を受けている 

}	はい	16
	いいえ	94

殆どが加配申請をしておらず、理由としては、外国人生徒の人数が少ない（22）、話せるので必要がない（36）、該当生徒がいない（8）が多かった。ALT、特別支援、学外からの支援員、スクールアシスタント、ボランティアなど他の人が対応、途中入学だったため、などもあった。

※ 申請したが受けられなかった学校は4校。

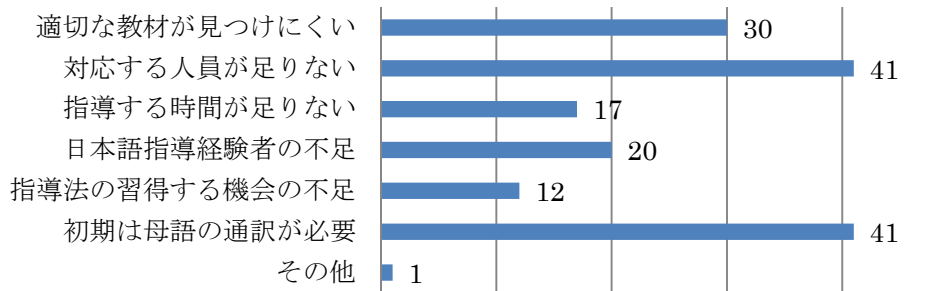
加配要請の基準を明確にしてほしいとのコメントも1件あったほか、生徒の人数に関係なく、加配が必要との意見も少なくなかった。

- ・ 外国人生徒のための教員に求められる経験、資質として下記のような記載があった。

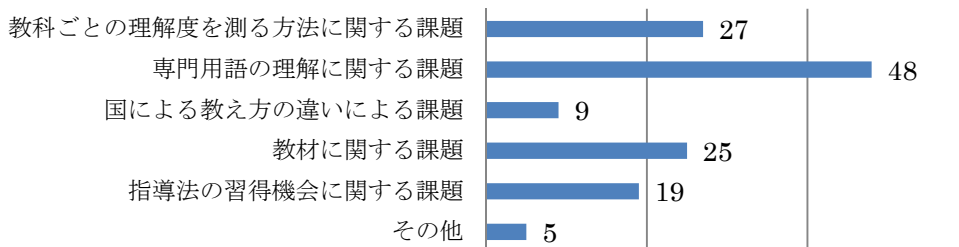
- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 母国の文化、習慣等を十分理解し、日本での生活に適応するための手立てを指導できる人材。</li><li>・ 語学も大切とは思いますが、コミュニケーション能力に優れ、保護者との関係も円滑に構築できる人。</li><li>・ 外国人生徒の母国語が話せる人材</li><li>・ 外国人生徒の理解が深い人、できれば生徒指導上、夜も勤務できたほうがよい。</li><li>・ 児童生徒理解力、特にカウンセリング的な力。困難な生徒によりそえる力</li><li>・ 教科内容を英語で説明できる能力</li><li>・ 外国人生徒の母国語をある程度話せるのがのぞましい。フルタイムで。</li><li>・ 日本と居住地域の知識を豊かに持っていること。</li></ul> |
|--|

### 3. 外国人生徒への対応で課題になりやすいことをお聞かせ下さい。

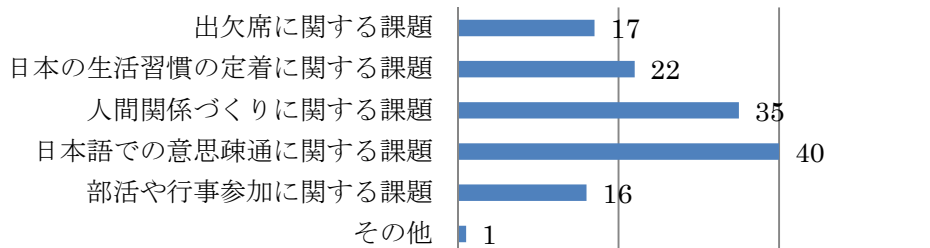
#### 日本語指導に関する課題



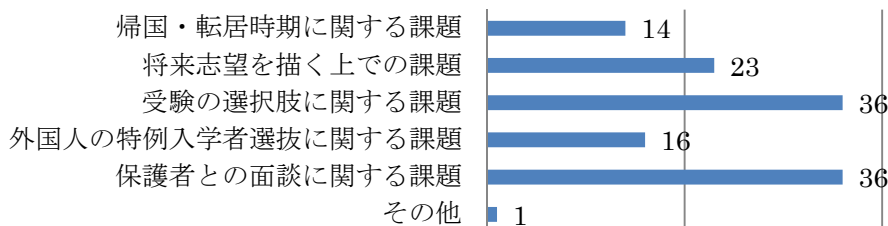
#### 教科指導に関する課題



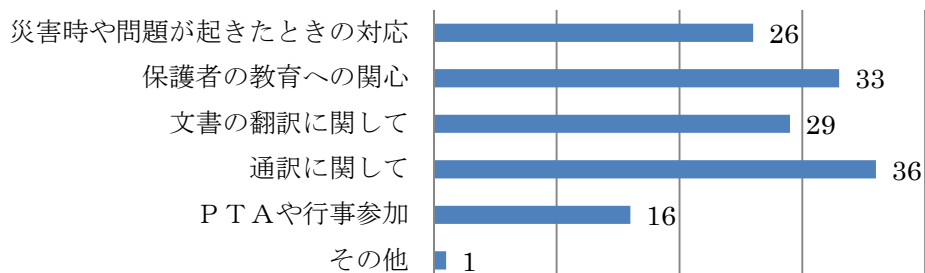
#### 生徒指導に関する課題



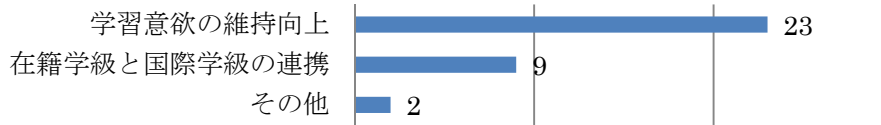
#### 進路指導や受験に関する課題



#### 保護者との意思疎通に関する課題



## その他の課題



外国人生徒受け入れに関する課題としては、日本語での意思疎通に課題を感じている学校が多く、通訳に対するニーズが大きいことが明らかになった。初期段階での母国語での説明、保護者との意思疎通も課題になっている。指導の場面では、教科の専門用語をどう理解させるか、や適切な教材をみつけることも課題として多く指摘されている。人間関係づくりや学習意欲など、心のケアに関する課題も多く指摘されている。

#### 4. 課題に対して、貴校で工夫していることや成果が上がっていることをご記入下さい。

##### 保護者とのコミュニケーション

- ・担任、学年担当を通じ、保護者との連絡を密にし、進路について見通しを立てられるようにしている。
- ・後見人の方に面談に参加していただき、説明をしてもらっている。
- ・役場に中国語が話せる方がいるので、困ったときにはお願いしている。
- ・携帯電話の翻訳ソフト等でお互いの話を理解したこともありました。
- ・保護者との意思疎通に課題があったが、日本語指導センターと連携し円滑に行くようになってきた。
- ・市の教育委員会で通知票の翻訳をしてくれたので教育への理解を深めることができた。
- ・保護者への連絡事項については文書等の送付とともに 電話や家庭訪問などによって保護者と直接話をし、確実に伝わるように努めている。
- ・保護者が英語を話せるので、重要な話をする場合には、英語科の教員に同席してもらっている。
- ・面接（特に進路関係）の場合、保護者と意思疎通がとりにくいので兄弟や仕事の関係の人を中間に入れて話を進めていくこともある。適任者が少ないと思うので、人材バンク的なものを用意してもらえると助かります。
- ・保護者の勤務先に依頼して伝達して頂いている。
- ・教育委員会の協力で大学生の通訳で保護者との意見交換ができ、今後の連携の図り方を確認した。等。

##### 生徒とのコミュニケーション

- ・独自教材の開発、母語の習得努力
- ・在日期間が長く母国語と日本語が話せる生徒による通訳(通訳してくれる生徒の学びの保障が課題)
- ・市の日本語指導センターからの教材を参考に自校化している。
- ・特に社会科、理科等の専門用語について、通訳を介して指導しているが、理解度については不十分。
- ・外国人生徒に対しては在籍学年、学級と連携して進路選択をさせている。
- ・生徒と積極的にコミュニケーションをとり、学力や進路希望をしっかりと把握する。
- ・国語の時間に別教室で日本語指導した結果、かなり上達し日本語能力検定3級を取得した
- ・担任に英語が話せる教員を配置。同じ母国の生徒のいる学級に所属させている。
- ・本校に勤務する常勤講師に外国生活経験者がいたので、長期休暇に日本語指導を行った。
- ・教科担当者は机間指導時に必ず声をかけ、支援するようにしている。担任は家庭学習ノートを毎日チェックし、理解が不足している場面では昼休み等に指導を行っている。
- ・常時TT授業を実施。また、教科担任等により必要に応じて取り出し指導を実施している。
- ・特別支援教育クラスの活動に参加させて、人間関係の構築と自己肯定感の高揚に努めている。

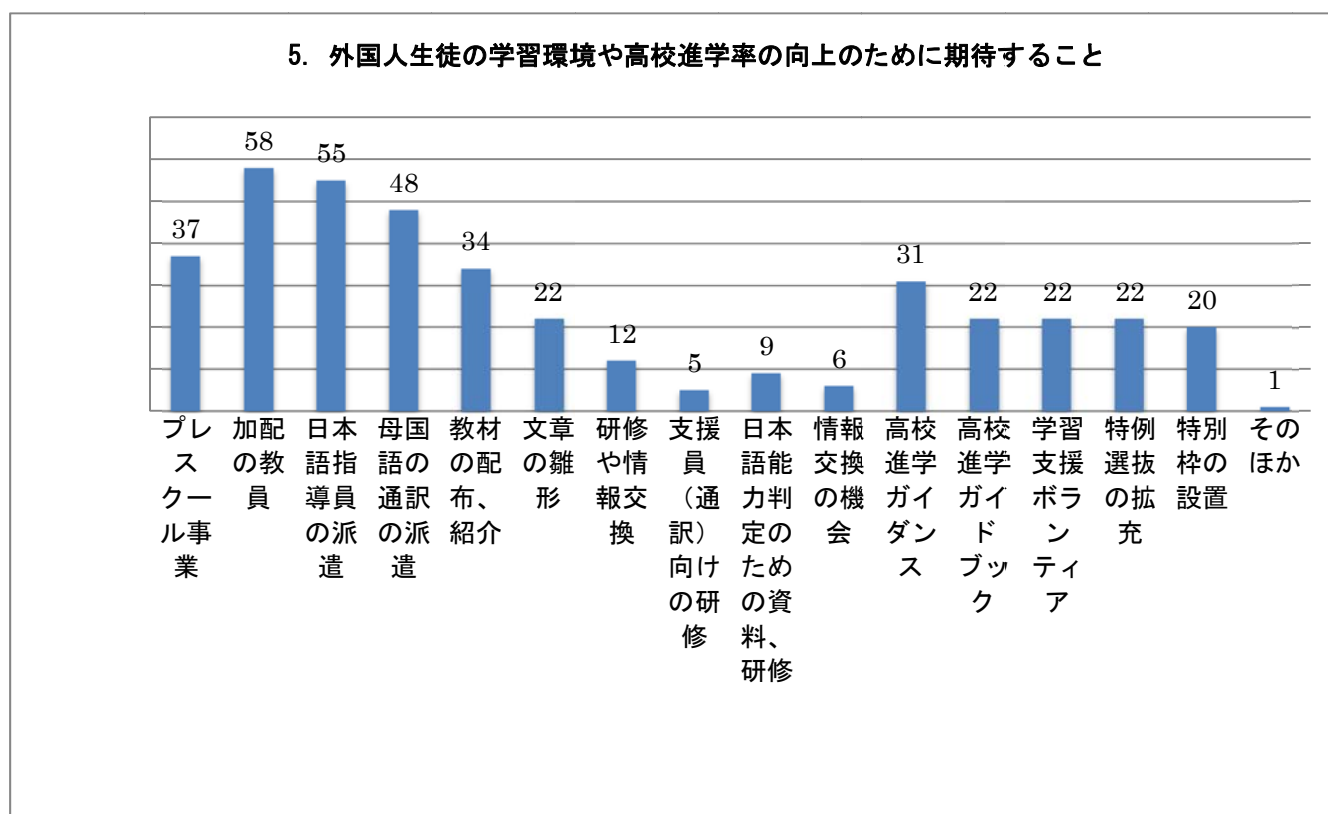
## 教員の連携

- ・ 空き時間の職員が教材を工夫しながら学習支援を行っている
- ・ 主に国語の授業の際に授業のない教員（主に教頭、教務）が初級の日本語指導を行っている。
- ・ 作成した教材や書類形式などを引き継ぎ、経験不足を補う。
- ・ 外国人生徒の所属する学年の教員と日本語指導担当教員で情報交換を密に行うことにより、外国人生徒がかかえている課題に対して、共通理解で対処することができた。
- ・ 日本語指導員との連絡、打ち合わせを適宜もっている。部活動の加入により、生徒間のコミュニケーションが日本語、習慣が身に付き始めている。

## 学外からの協力

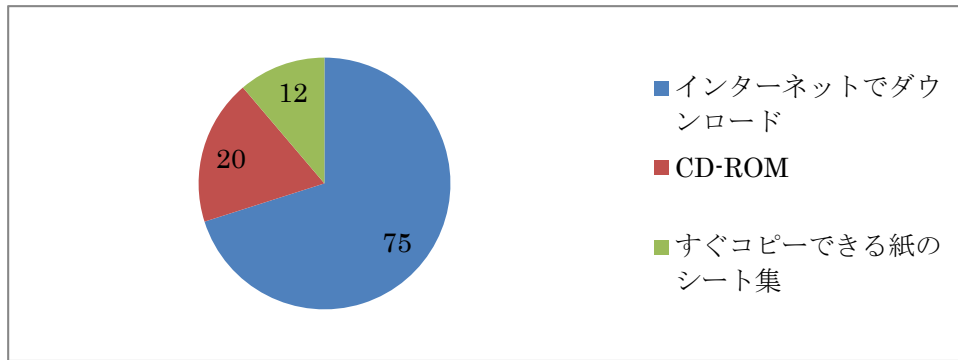
- ・ 日本語ボランティアの方がよく相談にのってくれている。
- ・ 担任の負担が多く、苦勞しているので、学校支援員の協力を得ている。
- ・ 日本語指導ボランティアと指導内容等について連携を図り、指導計画に基づいて支援している。

## 5. 外国人生徒の学習環境や高校進学率の向上のために、今後期待することがあれば下記の中から選んでください。（いくつでも結構です。）



今後の期待に関しては、加配教員、日本語指導員、母国語の通訳など人員の派遣を希望する学校が回答校の4割以上あった。次に多かったのが、入学や転入前のプレスクール、教材の配布紹介、高校進学ガイダンスに期待する声が多かった。

6. 今後、外国人生徒用の教材や保護者向けの多言語の文書の雛形の共有化を図る場合、どのようなメディアが使いやすいですか。(いずれかに○を記してください)



回答数が多かったのは「インターネットでダウンロード」だった。

7. 便利で他校にも紹介したい教材やよく利用している情報サイトがあればご紹介下さい。

文部科学省	かすたねっと	トゥカーノ	豊橋市教育委員会	岩倉市日本語適応指導教室
	リーディングちゅう太	みんなの教材	みんなの日本語	津市の日本語教材
	東京外語大学、在日フィリピン人向け教材開発プロジェクト			

8. 今、ほしい外国人生徒向けの教材はどんな教材ですか。

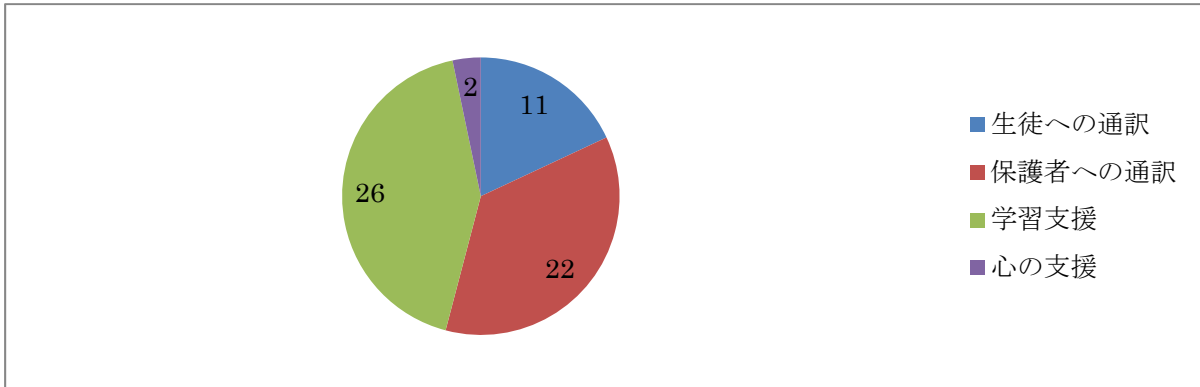
- ・社会と国語の教材、わかりやすい日本語か英語で書かれた社会や理科の教科書、小学校1年生からの国語、算数の教科書、ドリル等(おけいこ帳)、英語、母国語に訳された教科書や演習シート類、ふりがな付きの教科テキスト、すぐに使える各教科の基本教材、絵や図などで説明されているもの。
- ・母語で日本語の意味を調べられる辞書、日本語指導の教材、単語、動詞カード、ワークシート、ワークブック、ことばカード、生徒と保護者向けの中国語に関する学習用語集、ブラジル人に対応するためのポルトガル語(日本語訳も)で書かれている問題集、日本の中学校相等の教科書を英語、もしくは各母国語に翻訳したもの
- ・5教科の基礎を反復練習できる教材、受験対策で使えるような重要語句にひらがながあるような5教科の本、
- ・日本の文化、習慣の紹介、日本の学校生活を紹介するような副読本、進路向けガイドブック(母国語)
- ・日本語の語彙をふやすための教材、漢字練習教材、ワークシート、ワークブック、ことばカード、

9. 今、翻訳分がほしい保護者向けの文書は、どの言語によるどんな文書ですか。

**言語**：スペイン語(4)、ポルトガル語(9)、タイ語(5)、インドネシア語(1)、タガログ語(9)、パキスタン語(1)、中国語(8)、英語(2)、ネパール語(1)、ウルドゥー語(3) ベトナム語(1)

**文書**：在学証明、通知票の見方、会計書類の見方、三者面談案内、修学旅行案内、公立受験資料

## 10. NPO等が行う学習支援ボランティアや母国語での通訳の派遣事業に期待する活動内容



61校と、過半数の学校が、学外のNPO、ボランティアによる支援に期待するコメントを記入している。その内訳は、子どもへの学習支援が26校で最も多く、保護者との意思疎通に関する支援が22校となっている。対応する人が足りないことがここでも示されている。下記は期待する内容である。

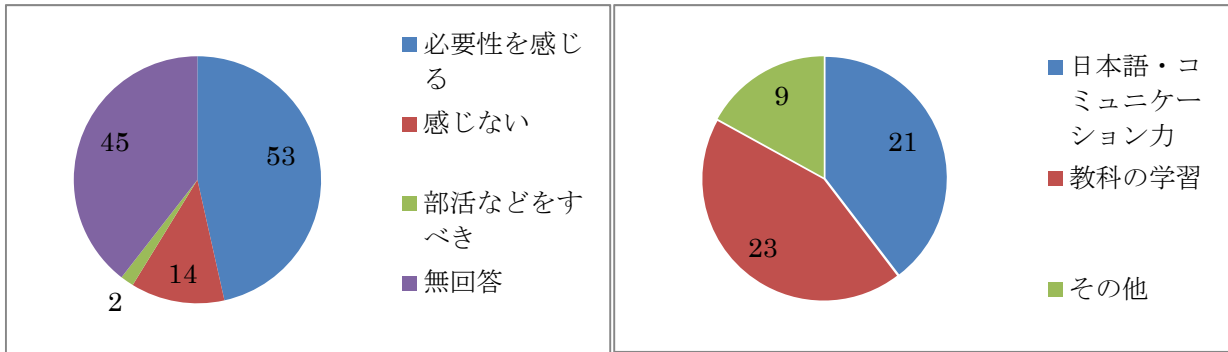
- ・ 生徒への通訳 入学時や日本に来たばかりで全く日本語が話せない時の通訳、理解できない場面での学校生活のガイダンス、入学前の初期日本語指導等のプレスクール事業、通訳に関する要望があった。11校
- ・ 保護者への通訳 外国人生徒と保護者に対して、家庭訪問時、学校からの連絡を伝える場面や家庭の様子、要望などを聞く場面、学力を正しく知りたい時（テスト等）、学校行事（保護者への対応も含めて）主に日常的な保護者のとのやりとりの場面と、など進路などの面談時の通訳や受験の書類づくりの補助、進路に関する通訳の期待が同じくらい寄せられている。計22校。
- ・ 学習支援 チームティーチングとしての活用、通常授業に入ってから支援、ずっとついていて欲しい人が欲しい、生徒をとり出して授業を行う場合の指導、教科指導を行う際の専門用語の解説等教科学習場面での支援を期待する指定が多い。定期テスト（実力テスト）の問題の通訳、放課後の復習を中心とした学習指導（音読など）、授業での通訳（パソコンで日本語を母国語へ）母国語をもとにした、教科指導と日本語指導などが指摘されている。「1日一時間でもいいので日本語指導を行ってほしい」など継続的な支援を期待する指摘が多かった。25校
- ・ 心の支援 様々な戸惑い、悩みに寄り添ってほしい、不登校傾向の生徒に対して、家庭訪問等による学習支援、等。2校

## 11. 地域の学習支援ボランティアを今後更に活用していく上でのアイデア

- ・ 学校とボランティアをつなぐコーディネーターの配置を提案した学校が6校。土、日、祝日等の学校行事、部活動等の意義、参加意欲等を正しく伝えていただけるコーディネーターの配置という指摘もあった。
- ・ ボランティアに期待することとしては、小学校時代の様子をよく知っている、地域のコミュニティーに通じた人、日本語を教えるノウハウがある方、教育課程や学校の組織をよく理解した人、などが指摘されている。
- ・ 地域に学習支援ボランティアがどの位いらっしゃるのかわからない、年度切り替え時にボランティア情報がほしい、支援ボランティアの一覧表がほしい、など情報提供を望む声もあった。
- ・ 学校とボランティア方との意見交換の機会や、学校現場の状況を十分に理解したり、学校という公的な場における研修などが必要という指摘もあった。



12. 塾などに行けない外国人生徒のための放課後の補習教室の必要性を感じますか。必要性を感じる場合、補習教室では何を学んで欲しいと思いますか。

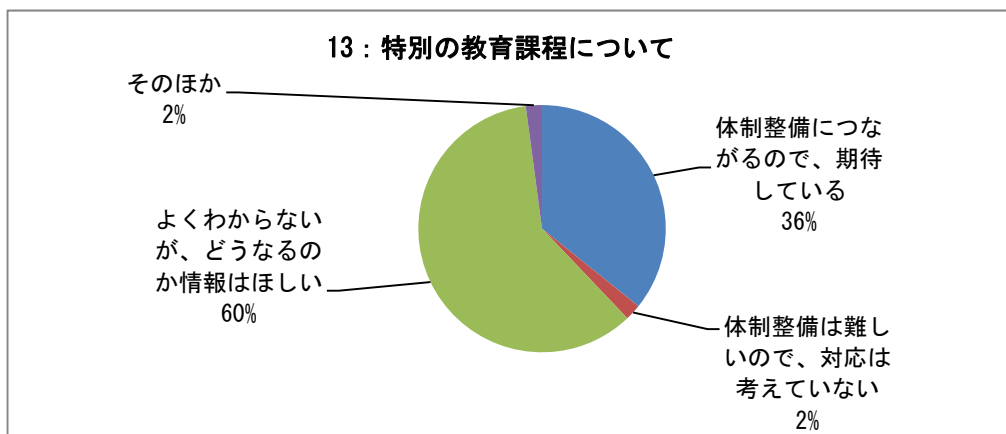


何らかの補習の必要性は53校と半数近い回答になっている。学んでほしいこととしては、日本語と教科の割合がほぼ同数であった。補習の必要性に関しては、学習に遅れがある生徒も多い、児童生徒が夜間ひとりで家にいる事例が多いため、夜間の生活支援を行う上でも一定の学習支援をする必要がある、経済的に難しい家庭が多いといった意見があった。

一方で、必要性は感じていても体制をつくれぬ、生徒の状況にもよるといった指摘も少なくなかった。

- ・ 教科学習への期待：授業などでわからなかったところ、苦手なところを学べる補習の機会があるとよいと思います。5教科の基礎的・基本的知識や技能、理科や社会、数学等の学習用語、教科用語、受験に必要かつ十分な日本語力、計算力、英語力、面接を含む受験指導、日本の進路システム、日本の文化、生活様式、等。5教科の基礎的・基本的知識や技能、日本語の文章が理解できないため、学習進度がストップしているもの。(例) 社会(地理)、理科、数学など。補習教室では7年生や8年生、又、小学校で学習したものを復習してほしい。国語、数学以外に理科、社会に力を入れていただきたい。
- ・ 日本語学習への期待：会話を中心とした日本語、まず生活に役立つ日本語の学習、日本語指導をする塾がない。必要性を感じる。言葉の壁で能力が伸ばせないことを防ぎたい。日本語がわからなければすべての教科がわからないので、国語の読み書きを学んでほしい。等。

13. 文部科学省が来年度から、学校教育の中で行う日本語指導について、必要に応じて特別の教育課程と位置づける方向で検討していることについてどう思われますか。



平成26年度からの日本語教育の特別課程に関しては、よくわからないので情報がほしいという回答が全体の6割で、体制整備につながるので期待するという回答も36%あった。

14. 外国人児童生徒の受け入れや学習環境整備に関して、家庭、NPO、企業、地域などに対して学校現場から発信したいことや、教育行政へのご意見などございましたら、ご自由にご記入下さい。

- ・体制に関すること：とにかく人材確保と必要な場合の窓口を明確にしてほしい。外国人生徒を持つ家庭全体（丸ごと）をケアする体制づくりを図ってほしい。在校生（外国人生徒）がいるのに途中で加配教員をなくしてしまうのはおかしいと思う、また、ほとんどの生徒は高校進学を希望しているため、彼らの学ぶ意欲を支援する加配教員は必要だと思う、受け入れ校を絞るとそこに就く支援員の数も確保できるのではないかな。すべての言語に対応できる通訳システムがあると連絡を通して指導しやすい。各学校それぞれ事情がちがうので、個々の学校に合ったサポートがとれることのほうが、全体の環境整備をそろえるよりもより現実的であると思う。日本の文化、生活習慣などについて事前に学ぶ場があるとよい。
- ・情報提供に関すること：外国人生徒の受け入れは、益々課題があると思うので情報交換の機会を設けていただきたい、等。
- ・教員の姿勢/取り組み：外国人を受け入れるということは相手の文化をきちんと理解すること、言葉がちがうからコミュニケーションをとらないではなく、まずは担任の先生や担当の先生が積極的にコミュニケーションをとることが本当に大切だと思います。言葉はたどたどしくても、感情や思考力は年相応に成長してきています。また異文化でクラスことや言葉が十分に通じないことにより一般の子にはないストレスも抱えていることを、他の生徒が理解できるような機会が増えるとよいと思う。
- ・生徒への支援に関して：不就学児童生徒の把握と対応、それぞれの生徒の情報を共有することが大切である。日常会話ができて、学習用語はなかなか理解できない生徒が多い現状である。
- ・保護者に関して：保護者との連絡体制や意思疎通への支援。保護者への適応指導が不可欠であると感じる。家庭の学校への義務教育意識が日本人と異なって低いことが多く、安易に休んでしまう生徒も多い。入学前に学校への考え方について保護者に教育行政よりよく理解いただけるよう話してほしい。
- ・経済的支援に関して：公立学校や外国人学校にも行けていない、不就学児童生徒の把握と対応  
金銭面での生徒の基盤の確保  
教材費等での資金について不足を感じているので、より援助をしていただきたい。
- ・地域との連携に関して：地域との連携がえきるとよいと思います。学校は、業務量が拡大しており、NPOや企業などの支援が本当に必要な状況にあると思います。